

としょかんだより

【下條村立図書館 138号 2019年1月15日発行】

この冬は暖かく 1 月に入っても日中、陽があたれば過ごしやすい日が多かったけれど、小寒を過ぎいよいよ真冬の寒さ到来でしょうか。陽があたらないと草木や落ち葉さえ正午を過ぎても凍ったまま、鳥や動物も息をひそめています。人間にはこんなに寒くても暖かい家がありますが、野生の生きものたちはどんな場所でこの寒さを乗り越え過ごすのでしょうか。自然を生き切る生命の力には不思議がいっぱいです。

としょかん大好き家族

絹田さんご一家

PART112

長原（たまご屋）

『親田高原のたまご屋さん』として、下伊那だけでなく首都圏にまで、熱烈なたまごファンを持つ絹田さんご一家の登場です。皓士(こうじ)さんと智花(ともか)さんが出会ったのは、都会の大学で農業を学んだ学生時代。都会の「水道水を飲むこともできない生活」よりも、田舎で農業をしたいと考え下伊那に移住。縁あって下條村に移住したのは6年前です。ちょうど長男の草志(そうし)くん(年長・6歳)が、まだ赤ちゃんのころでした。そのころから智花さんの図書館通いが始まり、常連さんになりました。

当時「えほんの会」に参加し、子どもの成長にとっていかに絵本が大切かを学びました。智花さん自身は子どものころ本を読んだ経験が少なく、「わが子には本に親しんでほしい」と願う気持ちがあるのだそうです。生活や子育てを応援する月刊誌『母の友』(福音館)は、いつも借りていきます。

草志くんが自分で選ぶ本は、とにかく図鑑です！最初は乗り物、次は恐竜…と移り変わり、今は地球・自然・地震…と知りたいことはどんどん広がっています。でもお話も大好き！年少さんぐらいから、読んでもらえば絵本も「絵のないお話」もいくらかでも聞き続けられるのだそうです。

長女の月穂(つきほ)ちゃん(年少・4歳)は、『はじめてのおつかい』『こんとあき』(福音館)など林明子さんの絵本がずっとお気に入り何度か借りていましたが、去年の春ついに購入したそうです。

次男の拓土(ひろと)くん(1歳)は、今は「0.1.2 えほん」シリーズ(福音館書店)をどんどん借りている真っ最中！『ぶーぶーじどうしゃ』『はい たっち』などが好きで、言葉をまねしてお話します。

「水がおいしく景色がよくて、静かで南アルプスや中央アルプスも見える。長原は本当にいいところです。僕らは、食べることが好きなんです。だから鶏や牛にも自然のなかの食べ物で育ててほしいし、僕らもそれをもらうことで“生きている”ことを実感したい。農業でどうにか生活できるようにはなったけれど、や

りたいことも課題もあります」と皓士さん。「メディアは一方的だから家族のコミュニケーションにはならないし、子どもには言葉の大切さを理解できる人になってほしい。想像力や集中力を養うことができるのはやっぱり本だから、仕事が忙しくてもうんと本を読んであげたいです」と熱く語ってくれました。

もくじ

- 1p 図書館大好き家族
- 2p 県下1位イベント
- 3p ミニ子ども博物館
- 4p 新刊ぴっくあっぷ



「おまつりみたい」に盛り上がった！ 県下1位イベント

☆「読書手帳チャンピオン」表彰される

2017(平成29)年7月に導入された読書手帳をきっかけに図書の利用率が上がり、年間の人口一人当たり貸出冊数が16.4冊となり20年ぶりに長野県下で1位となりました。

これを記念して読書手帳利用者に呼びかけ、世代ごとに最も利用の多かった方、上位各3名を表彰しました。読書月間の初日(2018.11.17)には、お祝いのくすだま割りのあと表彰式が行われ、読書手帳チャンピオンの皆さん(15名)には金田憲治村長から表彰状と記念品(図書カード)が贈られ、笑顔がこぼれていました。

☆わくわくはうすオープン！



2年前の一日図書館長行事

の懇談会で、「ロビーに、ちびっこだけであそべるおもちゃのおうちのような遊び場がほしい」という要望が出ました。それに応えて、夏ごろから有志ボランティアによりダンボールハウスづくりを進めてきました。

大型ダンボールを集めて寄贈してくれた方、(大人が乗ってもこわれぬ)頑丈なハウス・トンネル・すべり台をデザイン・製作してくれた方、できあがったハウスに絵を描いたり色を塗ってくれた方…大人(有志ボランティア)と子ども(児童クラブ・小学生図書館ボランティア)が、力を合わせて作り上げた大作です！イベントの当日には、作ったみんなでテープカット。その後は、大勢のちびっこたちが押し合いへし合い、遊びに遊びました！開館時間中なら、いつでも遊べます。どうぞご利用ください。

☆大盛況！からみん&カッセイカマンガズ販売ブース

この日は一日からみん応援隊の皆さんにご協力いただき、ロビーに販売ブースを設け、大人気のからみんやカッセイカマンのさまざまなグッズを販売していただきました。「からみんぬいぐるみキーホルダー」が新発売、特別価格での提供となりどんどん売れていました！「からみんオリジナルデザインTシャツ」の予約も受け付けるなど、さらに活動は広がり、からみん人気は高まっているようです！



【図書館からお知らせ】

読書手帳がいっぱいになった方には、2冊目の読書手帳と、こちらの図書館オリジナルクリアファイルをプレゼントしています。また、おうちの本1冊にブックコートをかけるサービスも実施中！



カッセイカマンの缶バッジも好評です！

ミニ子ども博物館コーナーご紹介

◆「図書館のまわりの自然たんけんに行こう！」

11月17日のイベントの1つで、「図書館のまわりの自然たんけん」に行ってきました。コースは、図書館から村民グラウンドに向かう道を下り、B & G体育館の周りで自然をたんさく。その時に子どもたちが見つけて持ち帰った自然からの贈りものを、図書館の入口手前に「ミニ子ども博物館コーナー」として展示しました。

「実りの季節も終わるころだから、何にもないかも…」という大人の予想に反し、子どもたちは素晴らしい発見&収穫物を持ち帰り、うれしそうに見せてくれました！

バッタを虫かごにいっぱい入れてきた男の子、アザミの花、コケ、キノコ、ハチの巣、赤い実、黒い実、いろんな種類の松ぼっくりにドングリ…等々。見たことのないものも、「あっ！これ知ってる！けど名前知らない」というものも。図書館の本で調べたり、同じテーマの本と一緒に展示してみると、さらに興味がワクワクとわいてきました！

赤ちゃんから高学年までの子どもたちと親、自然が大好きな大人たち計17名が参加。赤ちゃんをだっこしてあげる6年生の女子たちや、ケンカになりそうな子を止めようとするちびっこ。ほんの1時間半ほどの探検でしたが、身近な自然の中から、いろんな“たからもの”を収穫した貴重な体験となりました。

◆ミニ子ども博物館コーナーはただいま進化中！



どんな季節でも、自然はさまざまな姿を私たちに見せてくれます。正月明けの開館日に「自然たんけん」のときボランティアでお世話になった石毛京子さん（粒一南）が、いろんな「冬の自然のおもしろいもの」を持ってきて展示してくれました。

田んぼの遊休地のススキに作られていた、カヤネズミの巣。直径8センチぐらいの丸形。親が外出するときに入り口をふさぐため中は見られない構造になっている。カヤネズミはイネ科の植物が生える河原や湿地に暮らす、世界でいちばん小さいネズミ(頭胴長5～6cm)。

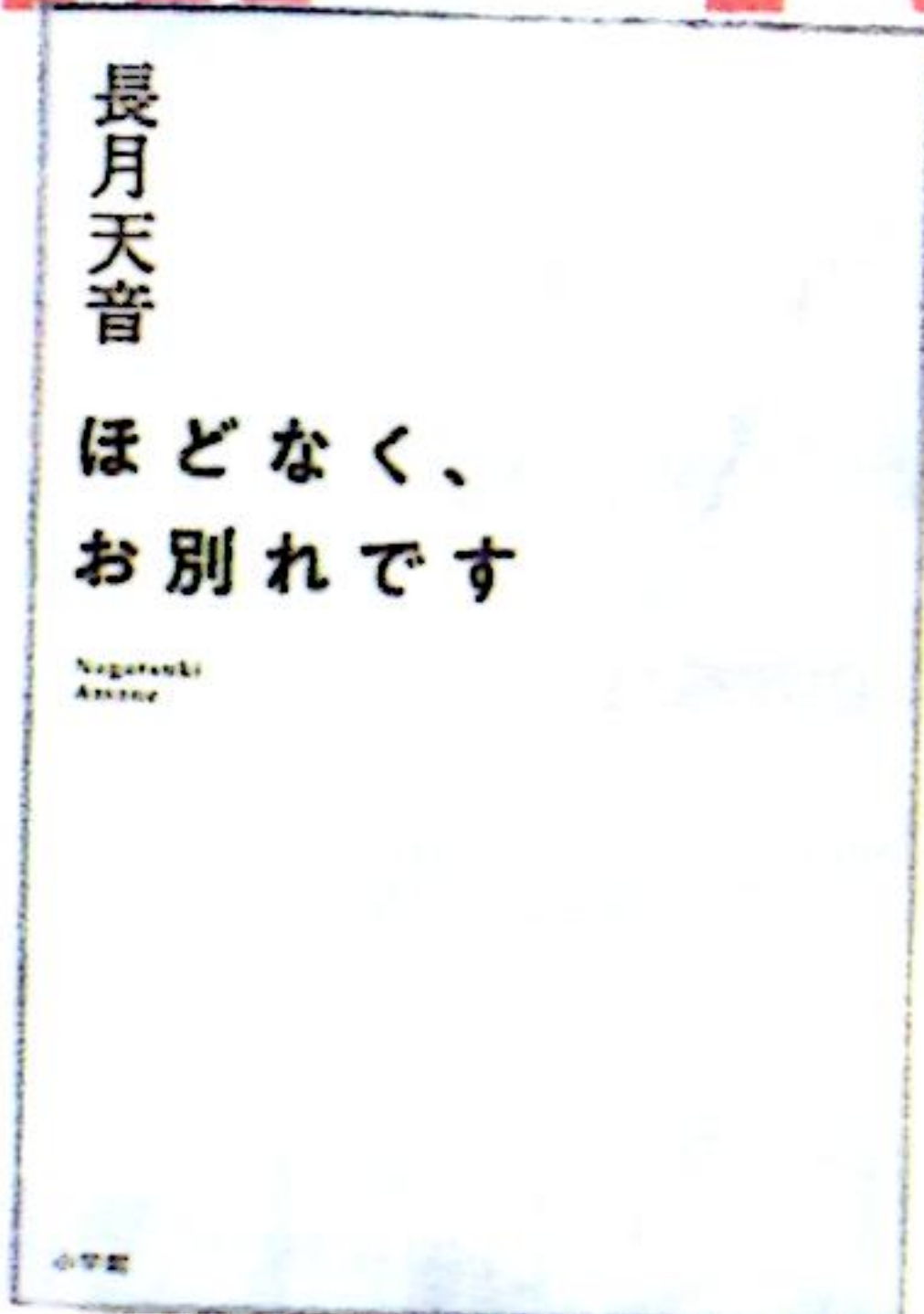
「トンボがいっぱい飛ぶ場所をつくろう」という願いから【トンボの田んぼ★プロジェクト】が2018年度スタート。田んぼ整備などを行いました。



冬場、地面によく見られるリュウノヒゲのたね、ウスタビガの空まゆ、ヤママユの空まゆ、ヘクソカズラの種、ガガイモの種、カルガモの羽毛、茶の木についたカマキリの卵、茶の実、ナンテンの実、ウグイスの巣など。



新刊 ぴっくあっぷ



「ほどなく、お別れです」長月天音著 小学館／大学生の清水美空がアルバイトをしている葬儀場「坂東会館」には、僧侶の里見と組んで、訳ありの葬儀ばかり担当する漆原という男性スタッフがいた。漆原は、美空のある能力に目を付け、自分の担当する葬儀を手伝うよう命じ…。*Fナ



「麒麟児」沖方丁著 KADOKAWA／慶応4年。勝海舟は徳川家を守るべく、決死の策を練る。官軍を率いる西郷隆盛との和議交渉にすべてを賭けて。幕末の嵐の中で対峙したふたりの「麒麟児」の覚悟と決断を描く歴史長編。*Fウ



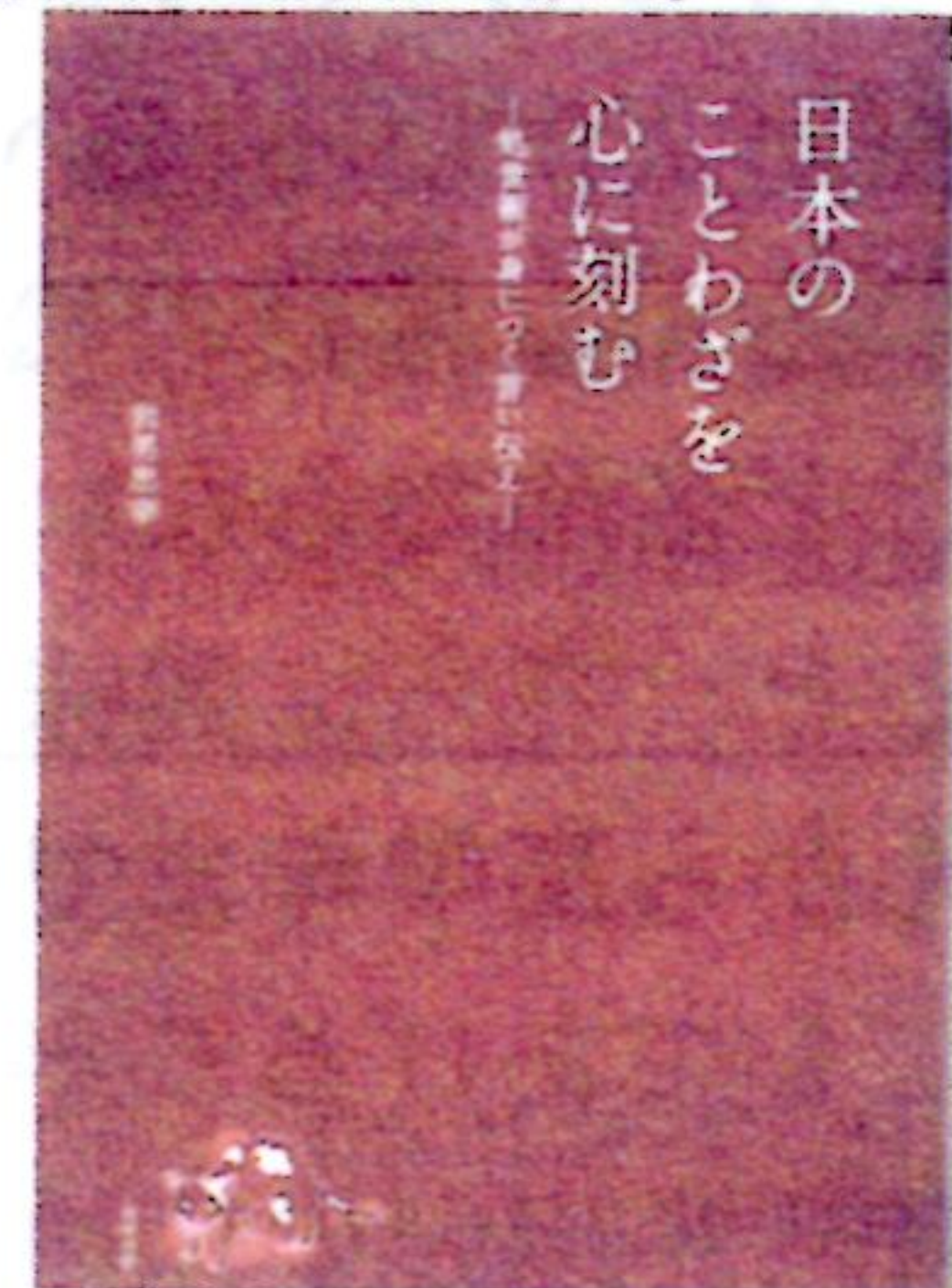
「82年生まれ、キム・ジョン」チョナムジュ著 筑摩書房／ある日突然、自分の母親や友人の人格が憑依したかのようなキム・ジョン。誕生、学生時代、受験、就職、結婚、育児…。彼女の人生を克明に振り返る中で、女性の人生に立ちあがる困難と差別を描く。*929チ



「NHKラジオ深夜便 絶望名言」頭木弘樹 飛鳥新社／「明けない夜もある」「無能、あらゆる点で、しかも完璧に。」絶望に行き当たり、絶望を見つめ、絶望の中で書き留められた文豪たちの「絶望名言」から生きるためのヒントを探す。*902エ



「一切なりゆき 樹木希林のことば」樹木希林著 文藝春秋／名女優が語り尽くした生と死、演技、男と女。さまざまな雑誌に掲載された樹木希林の言葉をまとめる。ユーモアと洞察に満ちた希林流生き方のエッセンスが満載。樹木希林年譜、内田也哉子による喪主代理の挨拶も収録。*778キ



「日本のことわざを心に刻む」処世術が身につく言い伝え 岩男忠幸著 東邦出版／先人たちの知恵や考え方がぎっしり詰まった、人が生きていくうえでヒントや指針となることわざを多数紹介。日本語の妙ともいえる「もじり」や「しゃれ」を使ったことわざも収録。*159イ



「日本が売られる」堤未果著 幻冬舎／水や米、森や農地、食の安全、個人情報…。日本が誇る貴重な資産を米国や中国、EUなどのハゲタカどもが買い漁っている！マスコミが報道しない衝撃の舞台裏と反撃の戦略を、気鋭の国際ジャーナリストが暴き出す。*304ツ



「日本人の9割がやっている残念な習慣 損する！危ない！効果ナシ！の130項目」青春出版社／目薬のあと目をパチパチする。豆腐を四角く切って食べる。その習慣、問題あり！衣食住の習慣の中から、よくある残念な習慣をピックアップ。ダメな理由と正しいやり方を解説し、一歩進んだ裏ワザも紹介。*049ニ



「東大式 世界一美しく正しい歩き方 100歳まで健康で動けるカラダをつくる！」小林寛道著 日本文芸社／腰痛・膝痛にならない、姿勢がよくかっこよい下半身を引き締める…。動きの質を高める大腰筋ウォーキングは体にやさしく健康効果がいっぱい！*498コ



「小池芳子のこうして稼ぐ農産加工 味をよくし、受託を組み合わせフル稼働」農文協／農産加工品の味をよくするためには、原料農作物のどこを見るか、調味料などの副素材をどう選び、どう使うか。加工所の効率を上げ、経営を好転させるには、この道40年の著者（飯田市在住）が、経験から明らかにする。*619コ



「人気定番スイーツの基礎BOOK 1DAY SWEETS SELECTION」朝日新聞出版／チーズケーキ、タルト、アイスクリーム…。製作者のこだわりが詰まった、とっておきのスイーツレシピを紹介。それぞれの基礎テクニックはもちろん、初心者でも失敗なく作れるように詳しい写真解説とポイントも掲載。*596ニ



「ダンボール織り機で、手織りざぶとん フサフサ、もこもこのあったか系から、裂き織りや自然素材の夏仕様まで」蔭山はるみ著 誠文堂新光社／ダンボールで作った織り機を使って手織りのざぶとんを作ってみませんか。袋織り、模様織り、ギンガムチェックの裂き織りおざぶの作り方や織り機の作り方も紹介。*594カ